

女性感染症ナビ

監修 愛知医科大学感染症科 教授 三嶋 廣繁先生

大人になる前に
知っておくことは？

おなかの赤ちゃんにも
影響するの？

人には聞きづらい
カラダの悩み、
どうしたら？

年をとると、
感染症にかかりやすくなるのが心配…



知ることは、守ること

感染症は、細菌、ウイルス、寄生虫などの病原体に感染して発症する病気です。カゼなど比較的軽い症状のものから、入院治療が要るもの、生命の危険にかかわるものまで、さまざまです。

ウイルスや細菌などは目に見えないごく小さなもので、あなたの周りにあり、ありふれた日常生活の行動のなかで、感染する可能性があります。また、感染症は自分がかかるだけでなく、他人に移す可能性もあります。

感染症を知ることは、守ることの第一歩。あなた自身の健康を守り、あなたの大切な人（パートナー、子ども、家族など）の健康も守ることにつながります。そのためには、感染症の正しい知識を身につけることが大切です。

愛知医科大学感染症科 教授 三嶋 廣繁





＋ こんな症状は、女性の感染症のサインかも？!

女性の感染症にかかると、女性のデリケートゾーンなどにサインがあらわれることがあります。このような症状はありませんか？



注意！

気になる症状の原因が、感染症ではない可能性も十分あります。
また、女性の感染症は自覚症状がない（少ない）ものもあります。日ごろから、自分の体の変化によく気をつけ、心配なことは医療機関に相談しましょう。

おりもの・不正出血・できものなど		腹痛	
症状	考えられる感染症	症状	考えられる感染症
しこり、ただれ(痛み・かゆみなし)	梅毒(ばいどく)	下腹部が痛い(数日かけて徐々に痛い)、激しい下腹部痛、悪寒・震えを伴う発熱、吐き気	子宮頸管炎、子宮内膜炎、卵管炎、卵巣炎、骨盤腹膜炎
おりもの、不正出血	淋菌(りんきん)感染症、性器クラミジア感染症		
不快感、かゆみ、痛み、水疱(すいほう)、ただれ	性器ヘルペス	尿の症状	
性器や肛門にカリフラワー状のいぼ・できもの、通常、痛み・かゆみなし	尖圭(せんけい)コンジローマ	症状	考えられる感染症
おりもの増加・臭い、かゆみ	膻トリコモナス症	トイレが近い、排尿痛、尿が濁る、残尿感、血尿など	膀胱(ぼうこう)炎
かゆみ、発疹、おりもの増加(白、ヨーグルト状、かたまり)、性交痛	性器カンジダ症	乳房の症状	
黄色い膿(うみ)を含んだようなおりもの、臭い、外陰部不快感、排尿困難、尿失禁、性交痛	萎縮性陰炎	症状	考えられる感染症
		乳房の赤み・腫れ・痛み、発熱、わきの下のリンパ節の腫れ・痛み、乳輪のあたりから膿(うみ)が出る	乳腺炎

厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」(研究代表者 今村顕史) ウェブサイト:「[HIV検査・相談マップ](これって性感染症?)」

法研: 六訂版 家庭医学大全科

一般社団法人広島県医師会: II.産婦人科疾患と腰痛.知っておきたい「腰痛(おなか痛い)」のポイントなどを参考にして作成

✓ 心当たりはありますか？

デリケートゾーンなどの気になる症状は、**不衛生な生活習慣や人には相談しづらい行動**、不規則な生活やストレスなどが関係しているかもしれません。最近、こんなことはありませんでしたか？

- ✓ 下着や生理用ナプキン、タンポンなどをこまめに換えない
- ✓ シャワーや入浴をあまりしない
- ✓ 逆に、ビデで膣内をよく洗っている
- ✓ 不特定多数や見知らぬ相手と性行為をした
- ✓ パートナーが不特定多数と性行為をしているようだ
- ✓ 生活が不規則、ストレスがあり、疲れやすい
- ✓ トイレに行くのを長時間がまんした
- ✓ 更年期で生理が不規則、または、閉経した





✓ セルフチェックしてみましょう

女性の感染症にかからないようにするためには、どうすればよいのでしょうか。まず、自分の体調をチェックしてみましょう。

チェック項目	
乳房に痛みやしこりがある	はい・いいえ
不正出血（生理ではない出血）がある	はい・いいえ
性行為をすると痛みや出血がある	はい・いいえ
おりものの量が増えている	はい・いいえ
おりものの色、におい、状態がいつもと違う	はい・いいえ
陰部にかゆみや痛みがある	はい・いいえ
性器周囲にイボや水ぶくれがある	はい・いいえ
尿をするときに痛む、血尿や残尿感がある	はい・いいえ
定期的に子宮頸がん検診を受けていない	はい・いいえ

一つでも「はい」がある場合は、医療機関を受診しましょう。

✦ 女性の感染症とは？

女性に特有の、あるいは女性に多くみられる感染症には、どのようなものがあるのでしょうか？ それは、次の3つに分けることができます。

1 女性の臓器や女性に特徴的な体の部位の感染症

外陰部・子宮・乳房・膀胱などに症状があらわれるもの



主な感染症は
p7参照



2 母子感染症

妊娠中や授乳中のお母さんから、胎児や赤ちゃんへ感染するもの



主な感染症は
p7参照



3 性感染症

性行為によって感染するもの



主な感染症は
p7参照





女性の体のデリケートな部分などに症状があらわれることが多く、妊娠・出産の機能や女性の健康と生命、また、パートナーや生まれてきた赤ちゃんにも影響を及ぼすことがあり、軽視できない感染症です。

 の印がある疾患は、p8～11に詳しい情報を掲載しています。

乳腺炎  1	膣炎 (細菌性膣炎、萎縮性膣炎)  2
子宮頸管炎  3	子宮内膜炎  4
子宮付属器炎 (卵管炎・卵巣炎)  5	骨盤腹膜炎  6
膀胱炎  7	
風しん	B型肝炎
C型肝炎	ヒトT細胞白血病ウイルス-1型 (HTLV-1)
サイトメガロウイルス感染症	B群溶血性レンサ球菌感染症 (GBS)
HIV感染症・エイズ (後天性免疫不全症候群)  15	性器クラミジア感染症  9
梅毒 (ばいどく)  8	トキソプラズマ症
水痘 (水ぼうそう)	帯状疱疹
梅毒 (ばいどく)  8	淋菌 (りんきん) 感染症  10
性器クラミジア感染症  9	性器ヘルペスウイルス感染症 (性器ヘルペス)  11
ヒトパピローマウイルス (HPV) 感染症  16	尖圭 (せんけい) コンジローマ  12
トリコモナス症 (膣トリコモナス症)  13	性器カンジダ症  14
赤痢アメーバ症	A型肝炎
B型肝炎	C型肝炎
膣炎 (細菌性膣炎)  2	HIV感染症・エイズ (後天性免疫不全症候群)  15
サイトメガロウイルス感染症	

厚生労働省: 母子感染を知っていますか?

国立感染症研究所: 母子感染

東京都福祉保健局: 性感染症ってどんな病気?などを参考にして作成

p7に掲載されている  がついている疾患の解説です。
 詳しい疾患解説は、「女性感染症ナビ」(シオノギ製薬)をご覧ください。



1 乳腺炎	
症状	乳房の腫れ・痛み・赤み・しこり、わきの下のリンパ節の腫れ、高熱、膿(うみ)が出るなど
特徴	うっ滞性乳腺炎 : 授乳期に乳汁が溜まることで起こる 急性化膿性乳腺炎 : うっ滞性乳腺炎に感染が加わって起こる 慢性乳腺炎 : 授乳とは関係なく、陥没乳頭があると頻度が高い
病原体	黄色ブドウ球菌、レンサ球菌、大腸菌など(急性化膿性・慢性)
感染経路	乳頭の小さな傷から細菌が侵入して感染する(急性化膿性・慢性)
治療など	乳房マッサージ(うっ滞性)、消炎薬、鎮痛薬、抗菌薬、外科的治療など

2 腔炎 (細菌性腔炎、萎縮性腔炎)	
症状	黄色っぽい(ときに灰色、水っぽい)おりものの増加、外陰部のかゆみ・赤み、性交痛、出血など
特徴	腔内の細菌が原因 性感染症によるものと、更年期などで女性ホルモンの分泌低下に伴い腔内常在菌のバランスが崩れることで発症するもの(萎縮性腔炎)もある
病原体	トリコモナス原虫、カンジダ、大腸菌など
感染経路	腔内の常在菌のバランスが崩れて発症しやすくなる(原因: 生理用タンポンの取り忘れや女性ホルモン分泌の低下など)
治療	原因となる病原体に合った薬剤(内服薬、錠剤、軟膏[なんこう]) 女性ホルモンの錠剤(萎縮性腔炎)

3 子宮頸管炎	
症状	症状がないことも多い 膿(うみ)のようなおりものの増量や炎症の併発時には、排尿痛、下腹部痛、性交痛、発熱など
特徴	子宮の入り口にある子宮頸管に起こる炎症 放っておくと腹腔内に感染が広がり、不妊症や流産・早産の原因になることもある
病原体	クラミジア、淋菌(りんきん) など
感染経路	性行為 分娩時、人工妊娠中絶手術時の細菌感染
治療	原因菌に合った抗菌薬

4 子宮内膜炎	
症状	下腹部の不快感・痛み、膿(うみ)のようなおりもの、発熱、不正出血、内診時に子宮の圧痛
特徴	子宮の内側をおおっている膜(子宮内膜)に起こる炎症
病原体	大腸菌、腸球菌、レンサ球菌、ブドウ球菌、クラミジア、淋菌(りんきん)、結核菌など 複数菌感染が多い
感染経路	細菌感染が原因となる 出産後、流産後、閉経後では、細菌が子宮より排出されずに感染しやすい
治療	原因菌に合った抗菌薬



詳しい疾患解説は、「女性感染症ナビ」(シオノギ製薬)をご覧ください。

5 子宮付属器炎 (卵管炎・卵巣炎)	
症状	下腹部痛、おりものの異常、発熱など
特徴	卵管と卵巣を合わせて子宮付属器と呼び、放置すると、卵管妊娠や卵管性不妊の原因などになることもある
病原体	クラミジア、淋菌(りんきん)、大腸菌、ブドウ球菌、レンサ球菌など
感染経路	性行為による感染が多いが、子宮内避妊具などにより細菌感染するケースもある
治療	原因菌に合った抗菌薬

6 骨盤腹膜炎	
症状	下腹部痛、臍(うみ)のようなおりものの増量、悪寒・震えを伴う発熱、子宮・子宮付属器の圧痛、性交痛、不正出血など
特徴	膀胱、直腸、子宮、卵管などの表面を覆う腹膜に起こる炎症 子宮頸管炎、子宮内膜炎、子宮付属器炎から炎症が広がって発症することが多い
病原体	クラミジア、淋菌(りんきん)など
感染経路	性行為 子宮内避妊具の長期装着 開腹手術後の感染
治療	原因菌に合った抗菌薬

7 膀胱炎	
症状	排尿時の痛み、頻尿、尿の濁り、残尿感、血尿、下腹部や膀胱部の不快感など
特徴	女性は男性に比べて膀胱内に大腸菌などの細菌が入りやすい構造であるため、発症しやすい(P14参照)
病原体	大腸菌、ブドウ球菌など
感染経路	大腸菌などの細菌が尿道口から膀胱内に侵入して感染する 性行為や排尿のがまんて発症しやすくなる
治療など	内服の抗菌薬 水分を十分とる(尿量を増やして膀胱内の細菌を流し出すため)

8 梅毒(ばいどく)	
症状	感染後約3週間 :主に陰部や口の中にしこり、鼠径部のリンパ節腫脹があらわれることがある 感染後数か月 :手のひら、足の裏、身体全体に赤い発疹(パラ疹)があらわれることがある
特徴	感染から経過した期間によって症状が異なる 治療をしなくても症状が軽快することがあるが、感染は続いており、無治療で放置すると脳や心臓に重大な合併症を引き起こす
潜伏期間	検査で陽性反応が出るのは、感染後約3週間
感染経路	性行為 先天梅毒(妊婦から胎児への感染)は死産や奇形が起こることもある
治療など	抗菌薬(内服、または点滴) パートナーと一緒に治療を受けることが重要 適切に予防しないと再感染する

p7に掲載されている  がついている疾患の解説です。
 詳しい疾患解説は、「女性感染症ナビ」(シオノギ製薬)をご覧ください。



9 性器クラミジア感染症	
症状	無症状のことが多い 黄色いおりものの増量、生理痛様の痛み、不正性器出血など 進行すると、骨盤内炎、卵管炎、肝周囲炎など重症化する
特徴	日本で最も多い性感染症 自覚症状がない場合が多く、感染に気付かないことも多い 不妊症の原因になることがある
潜伏期間	1~4週間
感染経路	性行為 母子感染(新生児の結膜炎、肺炎を起こす)
治療など	抗菌薬 パートナーと一緒に治療を受けることが重要 免疫はできず、何度も感染する

10 淋菌(りんきん)感染症	
症状	症状がないことも多い 緑黄色の濃いおりもの、尿道から膿(うみ)が出る 子宮内膜炎、卵管炎を起こし、子宮外妊娠、不妊症の原因となる
特徴	女性は症状に気付きにくく、進行して初めてわかることがよくある 口の中にも菌が認められることがあり、症状がなくても他人に感染させることがある
潜伏期間	2~7日
感染経路	性行為 母子感染(出産時。新生児の化膿性結膜炎、関節炎、死亡の危険)
治療など	抗菌薬 パートナーと一緒に治療を受けることが重要 免疫はできず、何度も感染する

11 性器ヘルペスウイルス感染症(性器ヘルペス)	
症状	症状がないことが多い 性器に小さい水ぶくれ、ただれ 激しい痛みによる排尿困難、歩行困難
特徴	一度感染すると、ウイルスが体の中に棲み続けて、免疫力が低下した時などに再発する 陰部に激しい痛みを伴う赤い発疹ができたときは注意が必要
潜伏期間	3~7日
感染経路	性行為 母子感染(産道感染。新生児の脳炎、内臓感染などを起こす)
治療	抗ウイルス剤の内服や軟膏(なんこう)、抗炎症剤、鎮痛剤など

12 尖圭(せんけい)コンジローマ	
症状	淡紅色や褐色の小さなとがったイボが外陰部、膣内、肛門にできて、集まると小さなカリフラワー状になる 痛みやかゆみはほとんどないが、感じることもある
特徴	外陰部に小さなイボができるが、痛みやかゆみなどがほとんどないので気付かないことがある 妊娠中はイボが大きくなる 発症すると完全にウイルスを排除することは難しく、再発を繰り返すことがある
潜伏期間	数週間~3か月
感染経路	性行為 母子感染(出産時。新生児の喉頭乳頭腫などを起こす)
治療	外科的治療 薬物塗布



詳しい疾患解説は、「女性感染症ナビ」(シオノギ製薬)をご覧ください。

13 トリコモナス症 (腔トリコモナス症)	
症状	強い悪臭がする白～黄色のおりものが大量に出る 陰部のかゆみ、痛み、性交痛、排尿痛
特徴	女性に強い症状が出るが、症状が出ない場合でも、治療しないと他人に感染させることがある 妊娠中に感染すると、早産になることがある
潜伏期間	1～3週間
感染経路	性行為 下着やタオルなどから感染することもある
治療など	抗微生物薬の内服や腔錠 妊娠中の治療は、医師の指示を必ず守ること 免疫はできず、何度も感染する

14 性器カンジダ症	
症状	陰部の強いかゆみ、白いおりもの(ヨーグルト状、かたまり)、性器の痛み、熱感、性交痛
特徴	健康な人でも、カンジダを体内にもっていることがあり、抵抗力が落ちたときなどに発症する しばしば再発する
潜伏期間	何年にも及ぶことがある
感染経路	性行為 感染経路はさまざまで、いつ感染したかわからないことも多い
治療	抗真菌剤(こうしんきんざい)の入ったクリーム、腔錠など 抗真菌剤は胎児移行性が強いいため、妊娠中は基本的に局所療法を行う

15 HIV感染症・エイズ (後天性免疫不全症候群)	
症状	感染後2～4週間 ：発熱、咽頭痛、筋肉痛など(インフルエンザ様症状) 自然に消える 数年～10数年 ：症状がなく経過する エイズ発症 ：無治療では免疫力が低下し、日和見感染症や悪性腫瘍の症状があらわれる
特徴	症状がなく長年経過するが、病気が進行すると、健康時には問題ない弱い病原体にも感染する
潜伏期間	数年～10数年
感染経路	性行為、母子感染、注射針の回し打ちなど
治療など	抗ウイルス剤の内服 妊婦は出産前から適切な治療が必要で、授乳をひかえる

16 ヒトパピローマウイルス (HPV) 感染症	
症状	感染は一時的で症状もないことが多く、自然に消えることがほとんど
特徴	ヒトパピローマウイルスは、子宮頸がんのほか、尖圭(せんけい)コンジローマの原因にもなる
潜伏期間	子宮頸がんの発症は感染後、数年～10数年
感染経路	性行為(女性の約80%が、一生のうち一度は感染するといわれている)
治療など	手術療法、放射線療法、抗がん剤予防にはワクチンがある

＋ 今すぐできる予防と対応

日ごろの生活習慣を改善したり、予防接種や検査を受けることが大切です。

- ✓ 下着や生理用ナプキン、タンポンなどをこまめに交換する
- ✓ シャワーや入浴で体を清潔に保つ
- ✓ ビデで腔内を洗い過ぎない
(腔内の自浄作用をもつ菌が減り、感染しやすくなるため)
- ✓ 下着は通気性がよく、衣服は締めつけないものを着る
(ムシないように)
- ✓ 授乳前には手指を洗い、
乳頭や乳輪を清拭綿などで拭いてきれいにする
- ✓ コンドームを使用する
- ✓ 不特定多数や見知らぬ相手と性行為をしない
- ✓ 予防接種を受ける p13参照 →
- ✓ 子宮頸がん検診や性感染症の検査などを受ける p13参照 →





＋ ワクチンで予防できる女性の感染症

女性の感染症には、ワクチンで予防できるものがあります。なお、妊娠中には接種できないものや接種要注意のものがありますので、注意しましょう。

✓ HPV (ヒトパピローマウイルス) ワクチン

妊娠中は接種要注意

HPVは、子宮頸がんを始め、肛門がん、膣がんなどのがんや尖圭コンジローマ等多くの病気の発生に関わっています。子宮頸がんの前がん病変を予防する効果が示されています。

✓ 風しん含有ワクチン

妊娠中は接種できない

妊娠中の女性が風しんウイルスに感染すると、先天性風しん症候群の子どもが生まれることがあります。風しん含有ワクチン(MRワクチン)の接種により、95%以上の人が免疫を獲得できるといわれています。

✓ B型肝炎ワクチン

妊娠中は接種要注意

B型肝炎は、B型肝炎ウイルスの感染により起こる肝臓の病気です。ワクチン接種による抗体獲得率は40歳までの接種では95%と報告されています。

✓ 帯状疱疹ワクチン (水痘ワクチン^{*})

妊娠中は接種要注意

妊娠中は接種できない

帯状疱疹(赤い発疹や水ぶくれが帯状に多くでき、痛みを伴う)を予防するワクチンで、2種類あります(乾燥組換え帯状疱疹ワクチン、乾燥弱毒生水痘ワクチン)。いずれも50歳以上対象。

※水痘ワクチン: 水痘予防の接種対象者は生後12月以上

厚生労働省: ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がん(子宮けいがん)とHPVワクチン～

厚生労働省: 風しんについて

厚生労働省: B型肝炎ワクチンに関するQ&A

法研: 六訂版 家庭医学大全科

添付文書: シングリックス筋注用.グラクソ・スミスクライン株式会社.2020年10月改訂(第1版)

添付文書: 乾燥弱毒生水痘ワクチン[ビケン].一般財団法人阪大微生物病研究会.2020年10月改訂(第1版) などを参考にして作成

＋ 検査について

■ 子宮頸がん検診

厚生労働省: がん検診

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000059490.html>



■ 性感染症の検査

東京都福祉保健局: 東京都性感染症ナビ 検査・相談

https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/seikansensho/inspection_consultation/index.html

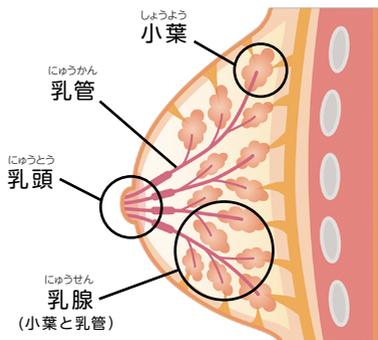


自分の体を知ろう！

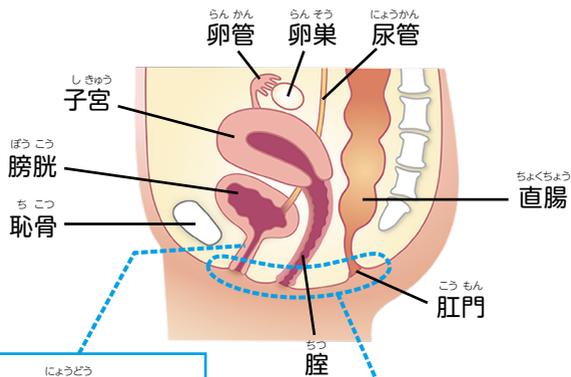
女性特有の体の構造を知っておきましょう。

…………… 乳房 ……………

しょうよう じゅうかん にゅうとう じゅうせん
小葉、乳管、乳頭をまとめて「乳腺」といいます



…………… 子宮・卵巣・膀胱など ……………



にょうどう
尿道

女性の尿道の長さは、
男性に比べて短いため、
細菌などが
侵入しやすくなっています

にょうどうこう ちつこう こうもん
尿道口・膣口・肛門

女性は尿道口・膣口・肛門の位置が近く、
大腸菌などの細菌やウイルスが
侵入しやすくなっています

あなたの年代でかかりやすい女性の疾患・感染症を知っておきましょう

女性のライフステージと多い疾患・感染症

多

女性ホルモン(エストロゲン)量

少



こどもの感染症の情報は
「こども感染症ナビ」
(シオノキ製薬)

https://www.shionogi.com/jp/ia/sustainability/informations-for-id/infection_navi.html

母子感染症

尿路感染症

女性の臓器・部位の感染症

性感染症

萎縮性膀胱炎

蛔虫(きょうちゅう)は通常は小児に発生し、女兒に寄生した場合に、膀胱に寄生することもあります。

お役立ちサイト

厚生労働省: 女性の健康推進室「ヘルスケアラボ」

<http://w-health.jp>



厚生労働省: 母子感染を知っていますか?

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/boshi-hoken16/dl/06_1.pdf



厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業

「HIV検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」(研究代表者: 今村顕史)

ウェブサイト: 「HIV検査・相談マップ」(これって性感染症?)

<https://www.hivkensa.com/sti/>



東京都保健福祉局: 東京都性感染症ナビ

<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/seikansensho/index.html>



この冊子は、

Webサイト「女性感染症ナビ」に掲載されている内容をもとに作成したダイジェスト版です。

詳しい情報は、下記サイトをご覧ください。

女性感染症ナビ



https://www.shionogi.com/jp/ja/sustainability/informations-for-id/female_navi.html

